

国家戦略での生物多様性の現状記述

資料 7

第2回基礎調査 (1978~79)
 第3回基礎調査 (1983~87)
 第4回基礎調査 (1988~92)

第1部 生物多様性の現状		戦略記述時点でのデータ	その後のデータ								
日本の生物多様性	生態系の多様性	第1節 自然環境の特性	日本の地理的位置、地形、気候、地史概説。生物多様性はその特徴をもとに成立			第5回自然環境保全基礎調査(1993~98)					
		1 植生の概況	自然環境保全基礎調査の現存植生調査から、植生自然度別の構成比	(%) 第2/3回基礎調査	第4回基礎調査	1.1	1.1	1.1 %			
			自然草原	23.6	23.4	23.2 %					
			自然林	19.2	18.8	18.6 %					
		2 地域別の概況	地域別に植生を中心に概説。自然植生は北海道、東北、中部山岳部、沖縄に多い。	二次林	24.6	24.9	24.8 %				
			植林地	3.2	3.3	3.6 %					
		3 島嶼生態系	日本の生物相では、南西諸島、小笠原諸島などの島嶼が特異な位置を占めるが、脆弱であり 特に外来種の影響が懸念。	二次草原	22.7	22.8	22.9 %				
			農耕地	4.0	4.2	4.3 %					
		日本の生物多様性	生態系の多様性	第2節 主要な生態系の特性	(1)陸域森林	自然林は北海道に約半分の面積が集中。二次林に生息する種の一部は急激な減少が懸念。			含自然林に近い二次林		
					イ 草原	二次草原の多くは遷移が進行し、草原性の種の一部は急激な減少が懸念。					
ウ 湿原	低層湿原への人為の影響、高層湿原の氷河期遺存種の生息地としての価値。										
エ 河川湖沼等	河川の往来の阻害により、流下・遡上が必要な種が減少。閉鎖性湖沼では水質悪化、外来種による遺伝的汚染が憂慮。				(1985) 113河川中13河川で上流部まで魚類遡上可能						
(2)沿岸海域	1978			1984	1993		自然海岸 半自然海岸 人工海岸 河口部				
ア 自然海岸	59			56.7	55.2	%					
	13.5			13.9	13.6	%					
	26.7			28.6	30.4	%					
イ 藻場	(1978~91) 消滅面積 (ha)			(1991) 現存面積							
ウ サンゴ礁	日本のサンゴ礁の類型と分布、造礁サンゴの衰退、サンゴ群集面積の現状			現存面積		85,680					
エ 干潟	干潟の分布、価値、面積の減少、現存量と消滅傾向		消滅面積		現存面積						
日本の生物多様性	種の多様性	第3節 1種の多様性	世界の植物区系、動物地理区分の中での日本の位置。ドイツとの比較において種数が高い。島嶼では固有種率が高い。			IRDB(1991)			新RDB(~2000)		
			絶滅危惧種	危険種	絶滅のおそれのある種(構成比)	絶滅危惧類	危険類	絶滅のおそれのある種(構成比)			
			(1) 哺乳類	3	11	14 (7.4%)	31	16	47 (23%)		
			(2) 鳥類	27	27	54 (8.1%)	42	48	90 (13%)		
			(3) 爬虫類	1	2	3 (3.5%)	7	11	18 (19%)		
			(4) 両生類	2	4	6 (10%)	5	9	14 (22%)		
			(5) 汽水淡水魚類	16	6	22 (11%)	58	18	76 (25%)		
			(6) 昆虫類	23	15	38 (0.1%)	63	76	139 (0.5%)		
			陸・淡水産貝類			34	39	73(8.9%)	86	165	251(25%)
			クモ類・甲殻類等						10	23	33(0.8%)
(7) 維管束植物	被子植物・裸子植物の約35%が固有種。維管束植物の約16%が絶滅のおそれあり		民間団体調査		824 (16%)	1044	621	1,665 (23%)			
蕨類						110	70	180(10%)			
藻類						35	6	41(0.7%)			
地衣類						22	23	45(5.0%)			
菌類						53	10	63(0.4%)			
世界の生物多様性	生態系の多様性	第4節	2 種内の多様性	地域個体群への圧迫、遺伝的多様性の低下の要因として人為的な導入							
			1 生態系の多様性	世界の生物地理学的な概観、森林の減少・劣化、土壌の劣化・喪失、島嶼生態系の脆弱性、海域生態系の多様性、沿岸海域の生態系への人為的影響							
			2 種の多様性	生物種や固有種の多い地域、国家。種の絶滅の要因、種の移入、生息地の破壊、狩猟、淡水域の生態系への影響大			IUCN(1994)	IUCN(2000)			
世界の生物多様性	種の多様性	第4節	3 種内の多様性	種内の多様性減少による影響の事例、遺伝的多様性の生息域内での保全の意義			哺乳類の16%、鳥類の10%が絶滅のおそれのある種	哺乳類の24%、鳥類の12%が絶滅のおそれのある種			